

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は悪化している。

- ・ 鉱工業生産は大幅に減少している。
- ・ 個人消費はさらに弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は緩やかに悪化しつつある。

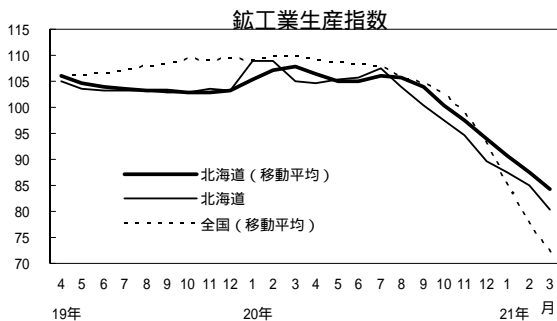
(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 21 年 2 月)	今回 (平成 21 年 5 月)
雇用情勢	悪化しつつある	<u>緩やかに悪化しつつある</u>

1. 生産及び企業動向

- (1) 第一次産業は、生乳生産は前年を上回り、水産物の水揚量は前年を下回っている。
1～3月期は、生乳生産は、牛乳等向けが減少したものの、乳製品向けが増加したため、総量では967,518tと前年比0.4%増となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけやすめいかなどを中心に前年を下回っている。
- (2) 鉱工業生産は大幅に減少している。
食料品は、飲料品、塩蔵品が増加したことから、全体でも増加している。パルプ・紙は、製紙パルプ、新聞巻取紙、印刷用紙等を中心に、減少している。鉄鋼は、特殊鋼、普通鋼を中心に、生産調整により減少している。電気機械は、無線通信装置、チップコンデンサ、プリント配線板等が減少したことから、全体でも減少している。金属製品は、金網等が減少したものの、軽量鉄骨、橋りょうが増加したことから、全体では増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10～12 月期	1～3 月期	1～3 月期	1～3 月期		
食料品	23.9	1.9	5.0	6.5	1.7		
パルプ・紙	10.7	8.1	15.9	9.0	20.6		
鉄鋼	8.6	17.6	42.2	40.5	4.2		
電気機械	8.4	20.0	31.7	26.4	29.6		
金属製品	8.0	6.5	6.6	12.6	26.0		
鉱工業	100.0	9.5	10.2	7.2	3.4		

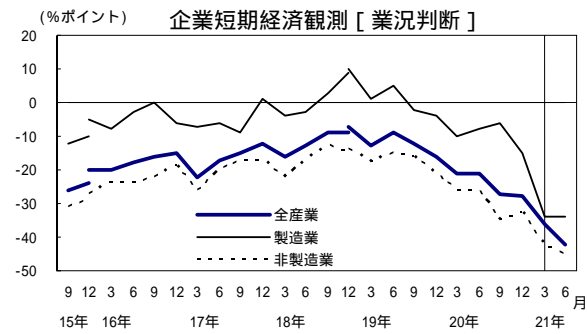
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1～3月期は速報値。

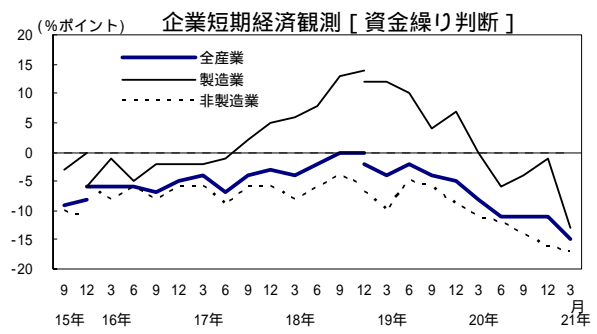
- (備考) 1. 17年 = 100、季節調整値、北海道の最新月は速報値。
2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

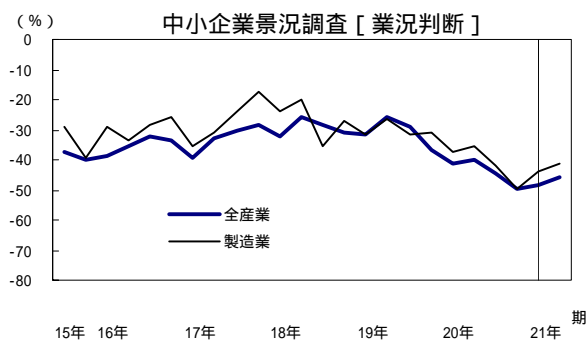
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年6月は予測。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

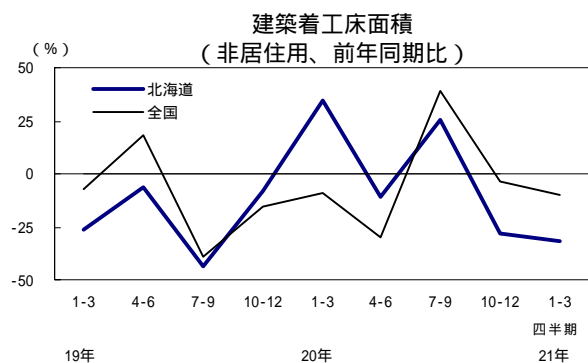
「受注量、販売量共に横ばいでの推移となっている。客先の仕事量に応じて、資材の購入を必要最低限にとどめている企業が多い(その他非製造業[鋼材卸売])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 20年度の設備投資は前年度を大幅に下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

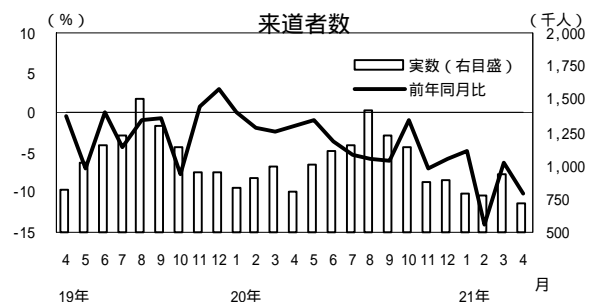
	(前年度比、%)	
	20年度実績見込み	21年度計画
全産業	11.4(17.7)	18.9
製造業	26.9(13.2)	24.9
非製造業	0.3(19.8)	15.7

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は、弱い動きが続いている。

来道者数は、2月は、天候不順による航空機の欠航が多くみられたことや、前年がうるう年だったことによる反動などから、前年を大幅に下回った。4月は、航空機の一部路線の減便・廃止もあり、大阪方面からの航空客が減少したことなどから、前年比マイナス幅が拡大した。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はさらに弱い動きとなっている。

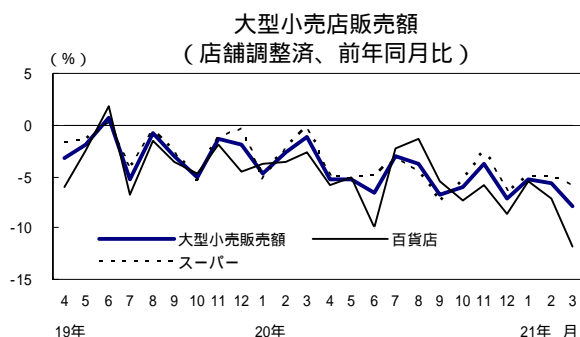
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、菓子、生鮮食品などの飲食料品は堅調だったが、衣料品は、気温が高めに推移したこともあり、コート等の重衣料が振るわず、前年を下回った。2月は、飲食料品は、バレンタイン商戦が不調で前年割れしたほか、衣料品も、紳士服、婦人服ともに振るわず、前年を下回った。3月は、飲食料品は、これまで好調だった惣菜が苦戦して前年割れしたほか、衣料品も、気温が低く春物が不調だったため、前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、4月の売上高は、札幌地区で前年同月比10.1%減、札幌を除く北海道地区で同11.7%減となっている。

スーパーは、冷凍食品等の飲食料品の動きは堅調だったが、衣料品の売上が落ち込み、全体としては前年を下回った。

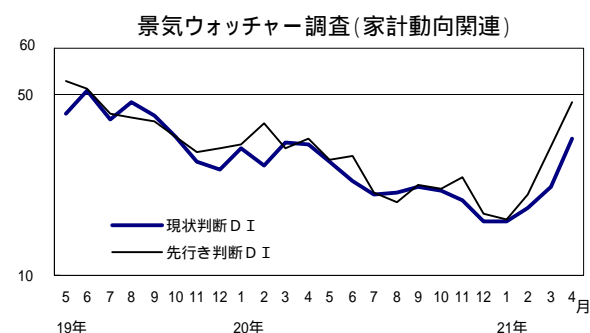
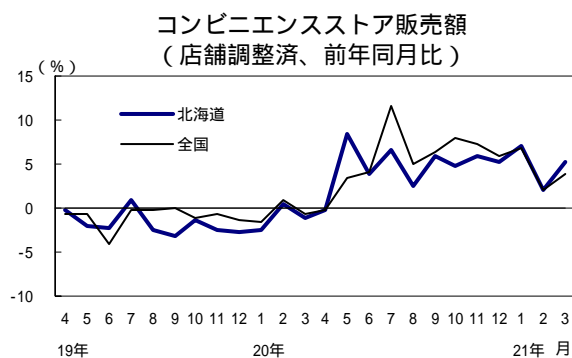
景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「追加経済対策によるエコポイントの付与が発表されてから、買い控えが進んでおり、キャンセルになるケースが増えている(家電量販店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月
大型小売店	5.7	4.5	5.8	6.3
百貨店	7.0	3.0	7.4	8.3
スーパー	5.0	5.1	5.1	5.4
コンビニ	4.1	5.0	5.3	4.8
景気ウォッチャー	34.9	28.6	25.8	25.3

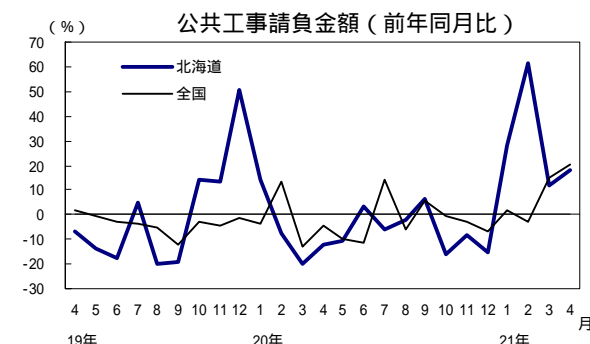
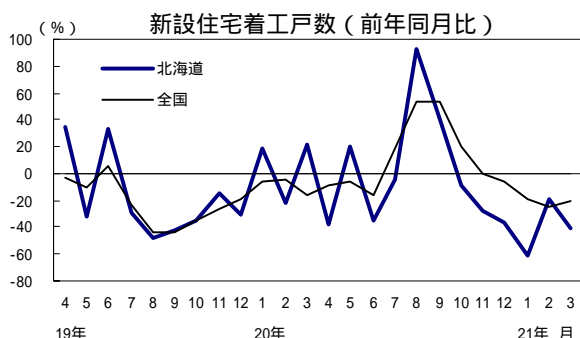
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。



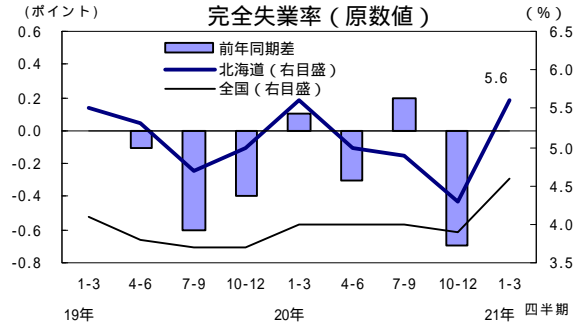
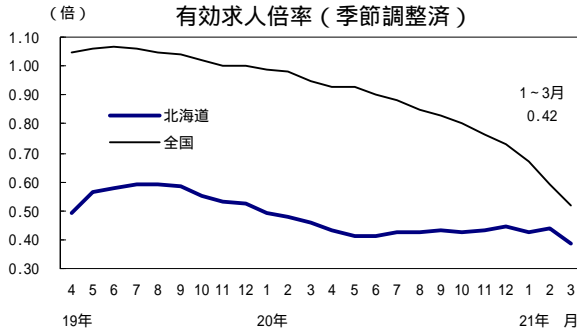
3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は緩やかに悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率(全数)はおおむね横ばいとなっているものの、有効求人倍率(常用)は前年同期を下回っている。完全失業率は前年同期と同水準となっている。

有効求人倍率の動きには平成19年末の北海道労働局の求人数の計上方法変更も影響しているとみられる。



景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

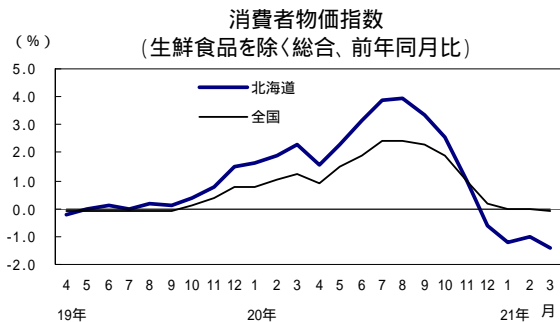
「新規求人数は前年から11.1%減少し、13か月連続で前年を下回っている(職業安定所)」など「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月	21年4月
倒産件数	187	190	189	175	56
(前年比)	8.7	37.7	43.2	4.2	24.3
負債総額	440	706	569	1,088	146
(前年比)	2.0	52.1	30.3	55.5	34.2



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- 道外ツアー客の動きが悪いが、個人客については、道内、道外を問わず、インターネット予約を中心にやや上向きとなっており、売上は前年を上回っている(観光型ホテル)。

<先行き>

- 定額給付金の給付により、5月中旬から衣料も含めた複数の業種で売上が増加することが見込まれる。また、プレミアム付き商品券の発売により、比較的大きな消費も見込まれる(商店街)。

景気ウォッチャー調査(合計)

